

明治大学国際交流基金事業外国人学識者招聘短期プログラム実施報告書

明治大学農学部 専任准教授 石丸喜朗

招請者氏名 Maude W. Baldwin

所属機関 Max Planck Institute for Ornithology

招請期間 2018年9月19日～2018年9月28日

農学部農芸化学科食品機能化学研究室では、国際交流基金外国人学識者招聘プログラムを活用し、Max Planck Institute for Ornithology（ドイツ）にて Research Group Leader を務める Baldwin 博士を9月19日～28日の10日間、本学生田キャンパスへ招聘した。

Baldwin 博士と当研究グループは2012年から鳥類の味覚を対象とした共同研究を行っており、Baldwin 博士の保有する貴重な鳥類のサンプル、行動実験、ゲノム解析の技術と、当研究グループが開発した味覚受容体の機能解析方法を組み合わせることによって、*Science* 誌にその研究成果が掲載されるなど（Baldwin#, Toda# et al., *Science*, 2014）、世界第一線の研究を行ってきた。

今回の招聘期間中には、Baldwin 博士に全学・学外者を対象としたオープンセミナーと本研究室メンバー向けのクローズドセミナーの2回の講演を行って頂いた。オープンセミナーでは、脊椎動物における味覚受容システムに関する概説や、当研究グループとの共同研究でこれまでに明らかにした花蜜食鳥類であるハチドリ類の糖の味受容機構に関する研究をご紹介いただいた。また、クローズドセミナーでは、Baldwin 博士の研究室で現在行っている鳥類の生態と食性に関する未発表を含む最新研究データをご紹介頂いた。参加した学生達には初めての英語セミナーとなり、国際感覚を養う上で大変貴重な機会になったとともに、海外にて第一線で活躍する若手女性研究者の姿は参加した女子学生達の良いロールモデルになったと考えている。

また、Baldwin 博士が Max Planck Institute にて、当研究室が保有する味覚受容体の機能解析技術を導入できるように、本滞在期間中、4日間に渡り実験指導を行った。直接の指導を行うことで、実験の詳細なプロトコルを共有することができ、双方ともに実りのある時間を過ごすことができた。

最後に本機会を提供して頂いた明治大学国際連携機構および国際交流基金事業に御礼申し上げます。

